

(1) 実施機関名：

東北大学災害科学国際研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

災害に関わる個人の心理・行動特性とその評価・活用・調整に関わる研究

(3) 関連の深い建議の項目：

- 4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究
- (2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

(4) その他関連する建議の項目：

- 5 研究を推進するための体制の整備
- (6) 社会との共通理解の醸成と災害教育
- (7) 次世代を担う研究者、技術者、防災業務・防災対応に携わる人材の育成

(5) 総合的研究との関連：

(6) 平成30年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

新規研究

(7) 本課題の5か年の到達目標：

我々は東日本大震災の被災者に取材して、災害の危機を回避し困難を克服する個人の心理・行動特性として「災害を生きる力」の8因子（リーダーシップ・問題対応・愛他性・頑固さ・エチケット・感情抑制・自己超越・能動的健康）を明らかにしてきた(Sugiura et al., 2015)。地震・火山等の自然現象や社会の仕組みに関する知識、また災害予測情報等を、災害対応に活用できるか否かは個人差が大きく、この個人差をよく理解して活用することで、より効果的な防災対策が可能になると期待される。本研究では「災害を生きる力」のうち、災害情報活用に関わる因子に着目し、認知・脳メカニズムレベルでその理解を深め、災害対応チームの構成や研修プログラム開発、一般向けの防災教育やアウトリーチ活動に活用可能な新しい枠組みを提案・検証する。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

平成31年度においては、災害情報を活用する態度・能力・考え方と関係する「災害を生きる力」因子を整理する調査を設計し、平成32年度にこの調査を実施、得られたデータを分析して災害情報活用の社会・心理学的枠組み（いつ誰がどんな文脈で）と、それに貢献する「災害を生きる力」因子を明らかにする。平成33年度に、これらの因子が災害被害の発生抑止・軽減に資する過程について認知仮説を立て実験検証を行い、平成34年度にこれを脳メカニズムレベルで検証する認知課題を設計し、健常大学生を対象に機能的MRIを用いた脳活動計測実験を行う。平成35年度にこのデータを解析し、因子の得点と判断課題時の脳活動との関係を明らかにする。これら一連の知見を統合して、災害情報を活用する「災害を生きる力」因子の認知・脳科学的実体と、これを防災に活用するための考え方のモデルなどを体系化する。なお、部会全体としての研修プログラム構築に知見を提供する予定である。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

杉浦 元亮（東北大学災害科学国際研究所・教授）

佐藤 翔輔（東北大学災害科学国際研究所・准教授）  
保田 真理（東北大学災害科学国際研究所・プロジェクト講師）  
水谷大二郎（東北大学災害科学国際研究所・助教）  
大場健太郎（東北大学加齢医学研究所・助教）  
石橋 遼（東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター・助教）  
浅野 竜一（一般社団法人 Project72・ミッショントレーナー）  
本多 明生（静岡理工科大学・准教授）  
他機関との共同研究の有無：無

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：認知科学研究分野（加齢医学研究所・人間脳科学研究分野）  
電話：  
e-mail：zisin-yoti@irides.tohoku.ac.jp  
URL：http://www.hubs.idac.tohoku.ac.jp/

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：杉浦元亮  
所属：東北大学加齢医学研究所／災害科学国際研究所